

67 明治9年5月6日 菊池長閑宛

(長閑注記1) 第四号 (長閑注記2)

(長閑注記3)

爾後益御清安奉南山候私無事勤学御安心被下たし当地ハ即今漸
 春草成長し諸方緑色を帯るれ共絶て桜木の開花を不見前便申上
 たる通日本桜梅梨桃の如花木府近辺杯にハ目に這入不申只日々
 開花を見聞する而已責て音丈も同じ故堪忍致居なり去月南部信
 方君着府以来同室に居たるなれ共何分不便利なる故此度二里計
 隔たる田舎に避暑旁移住し同じ家にて部屋を別にして勉強仕居
 なり君ハ凡二週間計(トウ)学校に通学し何級に入て適當なるかを試居
 たり最早来周よりハ級ハ極リ可申私ハ一体日本人と一所(トウ)に住居
 するトハ甚不本意なれ共何分君ハ奥州育て遠慮深く大名育て自
 分の体の取さかしも未タ自由に不出来殊ニハ言葉も自在に用兼
 故当分の内同居不致ハ成まし然し二三月も立たら独り離そうと
 思なり世話する事ハ当り前にて決して否トハ思ハね共私の為に

余り不宣勿論君の為にハ却て不為なればなり大名上りの人ハ自分て自分の仕末を付るハ第一の修業なるへしおくのさんハ其後病気に掛ませんか兄弟中て一番余計に煩たから最幾久豆□才なる様祈ます

五月六日

武夫拜

御尊父様

至机下

(長閑注記1)

(朱書)
「明治九丙子六月十二日達シ日数三十九日」

(長閑注記2)

「明治九丙子年」

(長閑注記3)

「日数三十九日ニシテ六月十二日達七月廿四日返書出シ」